

●天然記念物イタセンパラの生育池 トンガリササノハガイ 多数生育発見 福井波恵さん

2月28日にかつての生育池を調査してみるとトンガリササノハガイがかなり密集して生息していることがわかりました。また周囲の砂浜を掘り返してみますと砂の中に貝が潜り込んでいることも判明しました。一方で最後まで生育していたとされるワンドでは昨年は洪水がなく平穏だったのでワンドには貝などの生き物は見つけられず「ニコ土」が積もっていました。やはり高水敷まで増水する事態がなくては、ワンドの更新がされなくなっていくことがわかりました。今回の福井さんの調査で沢山の二枚貝の生息が明らかになったことは大変大きな発見でした。摂南大学生も地引網を使って全面的に生育調査を実施しています。近い間に結果があきらかにされると期待しています

●中聖牛1群4基完成 竣工式46名 淀川河川事務所長が祝辞

9月12日から竹蛇籠製作を始めて6ヵ月にして中聖牛設置1群4基をようやく完成することができました。今回は設置場所の決定が遅れ、蛇籠の製作場所が定められず、したがって竹材の運びこむ先が決められずやきもきさせられました。また竹蛇籠置き場で焚火跡が見つかり、完成品が火災に見舞われるかもしれないことが予想され、急遽全作品を安全な場所に移動させなければならなくなり、てんやわんやでした。竹蛇籠を移動させるために自転車道を横断しなければならないので10tダンプのための補強工事や許可などこれまでにない手続きに苦慮しました。新しい場所での取組は予想以上の苦労が続きまといました。困難は沢山発生しましたが、竹蛇籠の製作には155人の協力があり実働14日間で36本を製作出来ました。昨年は15日間で27本だったので制作力は格段に進歩しています。そして中聖牛の組立ても3基だった昨年から4基になって5日間で組み上げられました延べ作業員は66人で仕上がったのです。栗石の投入も4基となりましたが実質3日159人の大勢の協力があり出来上がったのです。これまでとは何もかも大躍進の取組みになりました。大きな成果をあげられる結果になり、里山の会の実力がいかに発揮されました。

2月27日の竣工式には、淀川河川事務所の所長さんが出席くださって高く評価され皆さんの苦労をたたえられました。新理事長の大村氏も成果を喜び皆さんの労に感謝を述べられました。又指導してきた京都大学の竹門康弘先生から取り組みの狙いやこれからさらなる研究目的を披露し、修士論文に取り組んだ玉川さんに期待していることを述べられました。



●2021年度取り組みには、9月12日蛇籠製作10月31日までに155人、1月13日からの中聖牛組立てた2月12日までに66人、2月24日からの栗石投入の2月27日に159人、合計386人の皆さんが関わってくださった文字通り令和の時代の川普請として人力で成し遂げられました。とても今の時代には考えられないような大成果と言えるでしょう。また今回最も大きな変化は若いお母さんたちとその子どもたちの参加があったことです。お母さんの頑張りが主力としてやる気を持って

頑張る高齢者たちに与えたエネルギーは非常に大きく計り知れない力を発揮させてくれました。そして子どもたちの頑張りがすごいものでした。広い河原で駆けずり回っていただけでなく、これまで四苦八苦して準備してきたステップル作り約 2000 本を作ってくれました。これがスピードをもって組立てられた大きな推進力になりました。(1 基に 60 か所の括り付け個所があり少なくとも 1 か所に 8 本のステップルが必要なのです)

●4 大学(摂南大学 京都大学 同志社大学 奈良女子大学生)の学生協力があり、大津市 奈良市 枚方市 豊中市 神戸市 松原市 富田林市 高松市 西宮市 東大阪市 京都市 宇治市 木津川市 寝屋川市 島本町 八幡市 城陽市 久御山町 京田辺市等 18 市町から一般参加がありました。また大阪府漁協からの参加がありました。確実に普及が広がっています。又報道関係では朝日新聞や京都新聞が竣工式の呼びかけ記事を掲載していただきました。また NHK 京都 TV が 27 日の午後 6:45 分と 8:45 分、翌日 28 日の朝 6:45 に地方発のニュースで全国放映されました。

●竹炭試行を披露 紅白のお餅で祝典盛り上げ 木酢液 30 本完売

里山の会では、協力くださって竣工式にご参加していただいた皆さんに何か手土産はないだろうかと相談しました。どうやら炭焼き体験で生産している木酢液を希望者への手土産にしてはどうかと提案があり、早速ろ過して 30 本ほど用意出来ました。見事に全部お持ち帰りになりました。また女性の方から手作りの紅白のお餅をお祝にお渡ししたいと申し出をいただき昆布茶で乾杯の後、紅白のお餅をふるまっていただきました。皆さん予想外の出来事に里山の会らしいと随分喜んでいただきました。そして山下さんと森島さんが準備していただいた「簡易竹炭の試作」を実験披露していただきました。用意した竹を燃焼させ式終了時には出来上がりました。炭化できたかをテスターで通電をテストして見ると通電することに驚かれていました。

この日は石詰めだけでなく楽しい取組を行われ多くの参加者があって賑やかなひとときになりました。

●「中聖牛の披露」の取組みを 3 月 21 日に開こう 呼びかけ

篠原グループ と子供たちの奮闘をお伝えしましたが、この日(27 日)はあいにく欠席となりましたので 3 月 21 日の午前中に「中聖牛の披露」の場を開催したいとの提案が寄せられました。2 日の事務局会議でその提案を受け入れ、大いに盛大に取り組んでいただきたいと満場一致で賛成されました。

午前中の短時間ですがぜひ多くの皆さんがご参加くださって木津川を楽しんでいただきたいものです。

●ヤマトサンショウウオ生育池の排水路改修工事完了

ヤマトサンショウウオ池の地主さんから、池から流れる水が土砂を流し、下の田んぼに流れ込み迷惑をかけている。その土砂の除去と排水工事をしたいと話がありました。土砂の除去工事は 2 月 24 日～26 日、排水工事は 28 日に完了しました。3 月 1 日 2 日には地主さんから指示がありましたので工事残土処理をさせていただきました。当初その池の水が干上がることになるのではとの心配もありましたが、地主さんのご厚意により流入の水も確保でき、池からの排水路も作っていただき、今までどおりヤマトサンショウウオの生育に支障なく保全ができることになりました。これで下の池の水も確保でき、一安心です。その後産卵がつづいてほしいものですね。

●ヤマトサンショウウオの成体と卵嚢を確認する

今年は寒さの関わりかヤマトサンショウウオの成体、卵のうの確認が遅れておりましたが、成体は 2 月 15 日・24 日に各 1 匹、卵のうは 28 日に 3 対確認しました。これから卵のうが見つかるのが増えるのではないかと思います。京都大学の学生 4 人が両生類(ヤマトサンショウウオ)の研究ということで来られたので金田さんが案内をしました。